

横浜市立美しが丘東小学校
平成30年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標

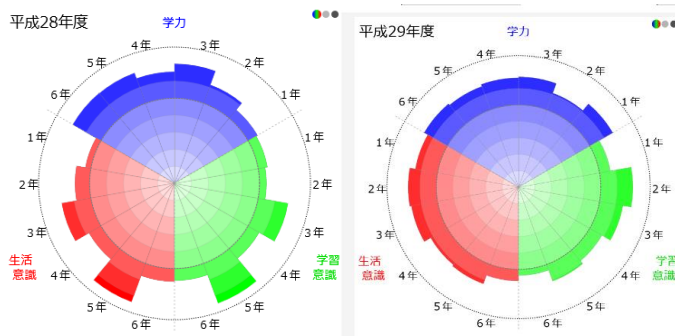
- 子ども一人ひとりを大切に、まちの教育力を活かした教育を推進し、人とのかかわりを大切に魅力ある学校にします。
- ・学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、子どもの表現や学び合いを大切にしながら「生きる力」を向上させます。
 - ・児童理解、特別支援の体制を充実させ、子ども一人ひとりが自己有用感をもち「行きたい学校」「安心できる学校」と思える学校にします。
 - ・まちの教育力（保護者、地域、ボランティア等）を活用した学習を取り入れ、まちの「ひと・もの・こと」とのつながりを意識した体験を通して、まちを愛する心を育てます。
 - ・学校、家庭、地域、諸機関の連携を密にして、健康で安全な学校生活が送れるようにします。
 - ・「チーム美東」として全教職員が、主体的に学校運営に参画して、活力ある学校づくりをします。

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力 (学習指導)	児童の実態を適切に把握し、「学び合い」を重視した授業を取り入れ、主体的に問題を解決していく中で表現力の育成を目指す。	① 全学級で「学習スタンダード」を意識した授業展開を図る。目あて、見通しをしっかりとせ、主体的に課題解決ができるようにする。 ② 重点研究を社会科生活科とし、「ひと・もの・こと」に関わり課題を解決する中で、自分の言葉で表現する活動を設定する。 ③ 授業力を高めるために、研究授業を行う。
担当	重点研 推進委員	

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

1) 学力の概要と要因の分析



全ての学年で、学力が市の平均を上回っており、基礎となる学習は身につけていると考えられる。

特に国語科と算数科において市の平均を上回っており、他の教科の学習の内容を理解するためのベースとなる力になっていると考えられる。

学習意欲においても、各学年、各教科いずれも市の平均を上回っている。生活意識では、「自分にはよいところがある」の数値が高い学年が多く、また、「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」が高くなっていることから、やるべき課題にしっかりと向き合い、楽しんで取り組んでいる様子がうかがえる。

2) 教科学習の状況

国語：学年ごとに多少のばらつきはあるが、「知識・理解・技能」や「読む能力」「書く能力」がどの学年も市の平均を上回っている。

算数：基礎の定着ができており、市の平均を上回っている。「数学的な考え方」の高い学年も複数あり、自分の考えを説明することや普段の生活に生かそうとする意識が、特に高学年は高い。

社会：市の平均を上回っており、特に「思考・判断・表現」が高い学年が多い。また、知識が豊かである。

理科：市の平均を上回っており、特に「知識理解」「思考・表現」が高い学年が多いが一部の学年で「知識理解」で平均を下回っている。

3)経年変化の状況と要因の分析(学習・生活意識調査も含めて分析)

昨年同様、学校全体で児童の学力が安定して市を大幅に上回っており、基本的な学力を身につけることができている。国語「書く能力」に関しては、国語だけでなく、様々な場面での書く活動を通してさらに、力を付けていきたい。生活意識も市の平均より、各学年とも高い。それは、教職員が共通意識をもって教材研究や生活指導を行い、きめ細かな指導を心がけてきたことによるものではないかと考えられる。

今年度は、重点研究のキーワードでもある「学び合い」を深めるために、発表方法やグループ学習の方法を工夫したり、教材の開発発行したりする。授業の中で、考えの伝え合いや認め合いができる子どもの姿をめざしていく。また、知識・理解・技能の定着に差があるが、どの児童も興味をもって授業に参加できる学習の方法や手立てを工夫していく必要がある。

3 学年・教科等の取組

1 学年

- 生活科を軸として、地域や保育園との交流を通して人とのつながりの大切さに気付かせ、感謝の気持ちもてる場面を位置づける。様々な学習や体験を通して、自分のことは自分でできる力をつけさせる。
- 行事への取組では、学年で指導にあたり、一人ひとりが最後までやり通せるよう支援していく。

2 学年

- 生活科を軸として、身の回りの生き物や人と関わりながら、積極的に学ぶ子どもを育てる。感じたことや体験したことを様々な方法で表現させる場面を位置づけていく。
- 子ども同士で学びあいができるように、いろいろな学習環境を提供していく。

3 学年

- 社会や総合的な学習では、課題別学習の形態をとり、学級の枠をこえた指導を行うとともに、地域の人と積極的に関わるように進める。
- 遠足、まち調べなどを通して、友達のことを思いやり、協力して活動できるように支援していく。各担任が共通理解を図りながら、学年児童全員の指導にあたる。

4 学年

- 友達との関わり合いを通して、互いを認め合うとともに、上級生や下級生との関わりも意識して過ごせるように指導する。
- 課題に対する自分の考えを表現する場面を設けて、思考力が高まる授業づくりを行う。体験的な学習の機会をつくり、活動を通して事実や問題を客観的にとらえられるようにする。

5 学年

- 一人ひとりが安心して自分の考えを伝えられる雰囲気を作り、様々な活動に心を合わせて取り組むようにさせる。
- 挑戦する姿勢を大切に、課題解決に向かって自ら努力できるよう、共通理解を図りながら指導する。

6 学年

- 全員が実行委員を経験する中で、見通しをもって主体的に行動したり、多くの人と関わりあったりする機会を設定する。
- グループ学習や外部講師による授業、校外学習など多角的な学習の場を設定し、豊かな学びを目指す。

個別支援級

- 個別の教育支援計画・個別の指導計画をもとに、一人ひとりの実態を把握し、個に応じた指導・支援を行う。
- 各学年の児童や職員との交流の中で、児童の発達段階に応じてコミュニケーション力を高めるような場面を多く取り入れる。
- お互いの個性を認め合い、困った時に助けてほしいといえる、誰にとっても安心できる集団作りを行う。

4 学校の状況と地域の実態

- (1) 各学年で指導事項や内容を共有し、児童へ同様の指導を行うことを心がけている。
- (2) 特別支援の面では、各学級に支援を必要とする児童は複数いる。学習や日常活動の中でできる特別支援についても共通理解を図り支援している。学習困難を感じている児童に対する支援も少しずつ増やしている。
- (3) 欠席児童が少なく、不登校児童がいない状況が続いている。
- (4) 子どもや学校に対する関心の高い家庭が多い。
- (5) 地域コーディネーターが組織的に活動しており、大勢のボランティアが学習支援に関わっている。